

平成25年度 糸魚川市生活科部 活動報告

部長 釜蓋 和幸

1 研究主題

「豊かにかかわり 自分を見つめ よりよく生きる子どもをはぐくむ」
～ 探究的な学習を充実させる協同的な学習支援の在り方を探る ～

2 研究の概要

昨年度は、研究部員で各校の諸計画集を作成し、冊子にまとめた。本年度は、それらを基にして各校で取り組んだ実践を冊子にした。また、昨年度までの県小教研指定研究校である田沢小学校で研究授業を公開し、協議を行った。

3 研究の実際

- (1) 公開授業 11月13日(水) 第1学年 生活科 単元名「あそびにいこうよ」
小単元名「かがやきランドであそぼう」

本時のねらい：おもちゃやゲームをより楽しくする方法を考えながら、友達のよさや自分との違いに気付く。

- (2) 協議会 協議題「気付きの質を高める協同的な学習の手立ては有効だったか」

授業者の反省

- ・ 友達からアドバイスをもらったり、逆にアドバイスしたりすることで、人と関わる楽しさを感じておもちゃ作りに取り組むことができた。
- ・ 各グループに分かれての話し合いは、教師の支援の難しさを感じた。

協議

- ・ 言語活動と体験活動がはっきりしていたため、子どもたちの活動は充実していて、生き生きと取り組んでいた。
- ・ グループで話し合われた内容について、学級全体で共有化する場を設定できれば効果的であったのではないか。

- (3) 指導者糸魚川市教育委員会渡邊参事様からのご指導

今求められている21世紀型学力を育むためには、「協同的な学習」が必要である。他者と関わり合うことを通して、これまでの自分になかった見方・考え方に出会い、新たな見方・考え方が形成されていくような学習である。

保育園での学びは、「個人で活動する」段階から「他者や集団で活動する」段階の過渡期である。意図的な集団に分けることはしない。小学校の学びでは、園での無意識・無自覚な学びを意識化・自覚化させる段階として、生活科が重要である。

4 成果と課題

園との密接な結びつきにより、遊びと学びをつなぐ連携のカリキュラムができてきた。今後は、地域素材を取り入れた単元開発を複数校で行い、近隣校間の連携を深めていくことが課題である。